番号	氏名	抱負
31	高島　弘幸	日本放射線技術学会は、諸先輩方が作り上げてきた歴史ある学術団体です。また、放射線技術学を取り扱う集団として、アジア、そして世界への躍進が続いています。その中で、人と人とのつながりを大事にし、臨床・研究・教育を重視しつつ、国際化への必要性を一人でも多くの会員に広めるための努力を惜しみません。諸先輩方の訓えを若手会員に広めるため、多くの会員の意見に耳を傾け、本学会を発展させるため、精進する所存でございます。何卒、よろしくお願いいたします。
32	千田　浩一	公益社団法人日本放射線技術学会の発展に貢献する所存であります。特に放射線技術学領域における、教育と研究の充実に寄与したいと考えております。研究論文投稿など国民に対する研究成果公表の推進、研究環境等を維持拡充されるための科研費獲得などへ向けた支援等について、重点的に取組みたいと考えております。さらに、東日本大震災復興へ向け日本放射線技術学会が果たすべき役割などについて、積極的に関与する所存です。
33	赤澤　博之	高度な専門性をもつ専門分科会ならびに地域性をベースとした地方部会は、時流に沿ったさまざまな研究会・セミナーを開催したり、研究発表の場を提供するなど、学会として主だった事業を展開しています。また、企画・学術・教育・編集・出版などの委員会は、まさに学会としての基盤となる諸事業を担っています。しかし、学会にはこれ以外にも重要な仕事があり、学会としての方向性を予算配分の面から決める財務委員会や、他の委員会が扱わない雑多な領域を受け持つ総務委員会がこれに当たります。直接的な会員サービスに繋がる事柄が少ないため、見えにくいことも否めませんが、総務委員として6年、同委員長として4年を過ごし、重要性を痛感しました。今回、これまでの経験を生かし、自らの責務・役割を果たすべく、学会を運営する理事に立候補しました。学会としての継続性を担保し、学術事業の発展を支える所存です。どうぞよろしくお願い致します。
34	坂本　博	秀でた組織運営には継続と改革が常に求められます。日本放射線技術学会は日本の放射線技術学を牽引する立場であるとともに国際化というビジョンに向けて、まさに今、継続と改革が問われているのではないでしょうか。現在、私は医療情報分科会の分科会長を拝命し来年度で3年目となります。医療情報分野は放射線技術学の中で各専門分野を横断的に網羅する基盤分野であることは、いわずもがなですが研究と診療を結びつける最大のツールが医療情報であるとも考えています。それは、研究と診療業務の両輪を回すための武器となり、本学会の大きな特徴のひとつといえるでしょう。この度の役員への立候補は診療の現場に身をおく者のひとりとしてメディカルコーチングのスキルを生かして会員の生の声を聞く、医療情報というツールを携え研究推進と学会運営に反映させて行きたいと考えたからです。甚だ若輩者ではありますが、本学会の会員諸氏のために邁進する所存です。